



花壇に咲くブルーサルビアの花

麻里布小だより

10月

<http://www.edu.city.iwakuni.yamaguchi.jp/site/marifu-e/>

令和5年度

「言葉の力」で自信や意欲を！

9月に入っても記録的な猛暑が続いていましたが、少しずつ秋を感じる頃となりました。2学期が始まり、3週間ばかりが経ち、子どもたちは、毎日落ち着いて学校生活を送っています。

さて、8月25日から行われた「FIBAバスケットボールワールドカップ2023」では、男子日本代表が日本史上初となるワールドカップ3勝をあげ、48年ぶりに自力での五輪出場権獲得を決めたことは記憶に新しいところです。選手一人ひとりの努力はもちろんですが、ホーバスヘッドコーチが「信じる」という言葉を言い続け、選手の自信とモチベーションを高めていったことも好成績の要因だといわれています。

以前、岩国市周東町出身で、バルセロナオリンピックバレーボール全日本女子帯同トレーナーとして活躍された岩崎由純さんのペップトークの話聞いたことを思い出しました。ペップトークとは、選手を励ますために監督などの指導者が試合前（本番前）に行う激励のショートスピーチのことです。その話の中で、ポジティブな言葉かけが大切であること、また、「小さな子どもたちの心には、悪い言葉もいい言葉も、まさに砂に吸い込まれる水のようにしみ込みます。その水が、子どもの心の幹を育てます。」という金盛浦子さんの言葉を紹介していただき、言葉の大切さを実感したところです。できていないことばかりが目につき、叱責の言葉をかけてしまいがちですが、ポジティブな言葉かけが自信や次なる意欲につながります。

2学期は、社会見学、修学旅行や自然教室など、多くの行事があり、様々な活動を通して、大きな成長の期待できる学期です。子どもたちの自信や意欲が高まるような言葉かけを大切にしながら、子どもたちの健やかな成長を支援していきます。引き続きの御協力をお願いします。

ふるさとを愛し、自ら学ぶ、たくましい児童生徒の育成

岩国市内の小中学校で小中一貫教育がスタートし、4年目を迎えています。麻里布中学校区では、裏面にある「麻里布地域小中一貫教育ランドデザイン」を作成し、「ふるさとを愛し、自ら学ぶ、たくましい児童生徒の育成」を目標に取り組んでいます。

グローバル化の進展やAI技術の発展など、変化が著しく予測困難な世の中をたくましく生きる児童生徒を育成するためには、学校が目指す内容を保護者、地域の皆様と共有し、協力して実現を図る「社会に開かれた教育課程」が必要だといわれています。裏面のランドデザインには、「学校・地域連携カリキュラム」として、具体的な取組を掲載していますので御覧ください。

特に、各学年においては、生活科、社会科、総合的な学習の時間などを利用し、「ふるさとを知る・ふるさとから学ぶ」学習を計画しています。この一環として、9月5日、5年生は、中通り商店街で行われている軽トラ新鮮組の代表者である藤田信雄さんを講師にお迎えし、軽トラ新鮮組が始まった経緯や麻里布地域に対する思いを聞かせていただいたところです。

これまでも、多くの皆様にお力添えをいただいておりますが、今後とも御支援をよろしくお願いいたします。



地域の方の思いについて学ぶ

9月7日の授業参観、修学旅行・自然教室説明会に、多数の御出席をいただき、ありがとうございました。